

JP406111294A

Apr. 22, 1994

L3: 1 of 1

MAGNETIC RECORDING MEDIUM, MAGNETIC HEAD AND MAGNETIC RECORDER

INVENTOR: ISHIHARA, HIROHISA
NAKAGAWA, MASAYOSHI
APPLICANT: ALPS ELECTRIC CO LTD
APPL NO: JP 04281030
DATE FILED: Sep. 26, 1992
INT-CL: G11B5/82; G11B5/187; G11B21/21

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a magnetic head having an optimum protrusionlike pattern in which attraction of the head to a magnetic recording medium is effectively prevented and sliding durability is improved, a magnetic recording medium and a magnetic recorder.

CONSTITUTION: Many protrusionlike patterns are formed on a region in contact with and sliding with at least a magnetic head of a magnetic recording medium, many protrusionlike patterns 4C are formed partly at least on a sliding surface opposed to the medium of the head 27, and an interval formed of the patterns 4 and 4C has a relation of $L1 \leq L2$, where $L1$ is an interval of a relatively moving direction between the head and the medium and $L2$ is an interval of a perpendicular direction to the relatively moving direction.

COPYRIGHT: (C) 1994, JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-111294

(43)公開日 平成6年(1994)4月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 1 1 B	5/82	7303-5D		
	5/187	C 7303-5D		
	21/21	G 9197-5D		

審査請求 未請求 請求項の数5(全 7 頁)

(21)出願番号 特願平4-281030

(22)出願日 平成4年(1992)9月26日

(71)出願人 000010098

アルプス電気株式会社

東京都大田区雪谷大塚町1番7号

(72)発明者 石原 弘久

東京都大田区雪谷大塚町1番7号 アルプス電気株式会社内

(72)発明者 中川 正義

東京都大田区雪谷大塚町1番7号 アルプス電気株式会社内

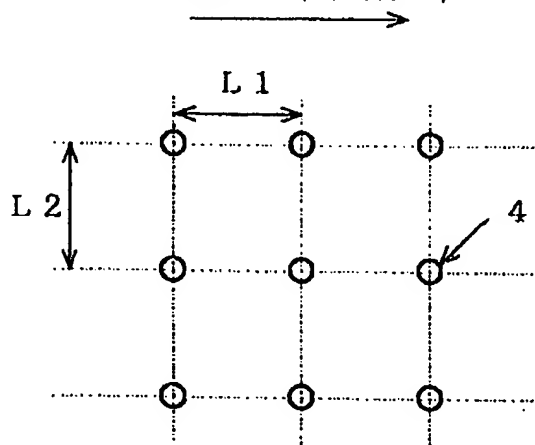
(54)【発明の名称】 磁気記録媒体及び磁気ヘッド及び磁気記録装置

(57)【要約】

【目的】 磁気ヘッドと磁気記録媒体との吸着を確実に防止するとともに、摺動耐久性を向上した最適の突起状パターン4を有する磁気ヘッドおよび磁気記録媒体ならびに磁気記録装置を提供する。

【構成】 磁気記録媒体の少なくとも磁気ヘッドと接触、摺動を行なう領域に突起状パターンを多数形成し、磁気ヘッド27の少なくとも磁気記録媒体と対向する摺動面の一部に突起状パターン4Cを多数形成するとともに、前記突起状パターン4、4Cの形成してある間隔が、磁気ヘッドと磁気記録媒体の相対移動方向の間隔をL1、相対移動方向に対し直角方向の間隔をL2とすると、 $L1 \leq L2$ の関係にあることを特徴とする。

摺動方向（円周方向）



【特許請求の範囲】

【請求項1】 磁気ヘッドとの相対移動により情報の記録・再生等を行なう磁気記録媒体において、少なくとも磁気ヘッドと接触し摺動する領域に突起状のパターンが複数形成されており、その突起状のパターンが磁気ヘッドとの相対移動方向に連続して密に存在することを特徴とする磁気記録媒体。

【請求項2】 請求項1に記載の突起状のパターンの形成間隔が、磁気ヘッドとの相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 とすると、 $L_1 \leq L_2$

の関係にあることを特徴とする磁気記録媒体。

【請求項3】 磁気記録媒体との相対移動により情報の記録・再生等を行なう磁気ヘッドにおいて、少なくとも磁気記録媒体と接触し摺動する面の一部に突起状のパターンが複数形成されており、その突起状のパターンが磁気記録媒体との相対移動方向に連続して密に存在することを特徴とする磁気ヘッド。

【請求項4】 請求項3に記載の突起状のパターンの形成間隔が、磁気記録媒体との相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 とすると、 $L_1 \leq L_2$

の関係にあることを特徴とする磁気ヘッド。

【請求項5】 請求項1または2に記載の磁気記録媒体および請求項3または4に記載の磁気ヘッドの一方、あるいは、両者を用いたことを特徴とする磁気記録装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、磁気記録媒体および磁気ヘッドおよびそれを搭載した磁気記録装置に関し、特に吸着現象による磁気記録装置の起動不良を防止し、摺動耐久性を向上させることを図ったものである。

【0002】

【従来の技術】 磁気記録媒体と磁気ヘッドは相対移動して記録・再生等を行なう。よって磁気記録媒体および磁気ヘッドの各々相対する摺動面は、摩耗やキズを避けるために高い平滑性が必要とされた。また浮上型ヘッドを使用するコンピュータ用の外部記憶装置である磁気ディスク装置においても、磁気ヘッドを安定して浮上させるために、同様に高い平滑性が必要とされる。

【0003】 しかし、前述した平滑性を高めた磁気記録媒体および磁気ヘッドの相対する面は、大気中の水分や、耐久性を向上させるために塗布した潤滑剤などによって、強い吸着現象を起こすという問題が有った。浮上型ヘッドを使用する磁気ディスク装置においても、装置停止中は磁気記録媒体と磁気ヘッドは接触するので同様の問題が有った。

【0004】 そこで、従来より上記のような問題を解決するために、磁気記録媒体および磁気ヘッドの相対する

面に粗さを設ける方法が一般的にとられた。磁気記録媒体に粗さを設ける方法としては、例えば磁気ディスク装置用の磁気記録媒体（以下磁気ディスクと略称）の場合は基板の表面にテクスチャーと称する不均一な微細な凹凸を機械加工あるいはケミカルエッチング等により設けていた。

【0005】 しかし前記したような機械加工やケミカルエッチング等により設けられた微細な凹凸は、所望の状態に制御することが極めて困難で、しかも、表面形状の特性値の定量化が困難であった。

【0006】 そこで、フォトリソグラフィ技術を用いて磁気記録媒体や磁気ヘッドの相対する面に微細な突起状パターンを形成し、前述した不都合を解決する磁気記録媒体や磁気ヘッドが提案されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、前述したフォトリソグラフィ技術を用いた磁気記録媒体および磁気ヘッドにおいては、相対する面に微細な突起状パターンを所定の形状に精度良く形成することは出来るものの、いまだに磁気記録媒体と磁気ヘッドとの吸着現象および摺動耐久性に対する最適化を図ることが出来ないという問題点が有った。

【0008】 なぜならば、従来例においては、各突起状のパターンを具体的に、どのように形成すべきであるか不明確であるからである。

【0009】 この磁気記録媒体および磁気ヘッドに設ける突起状のパターンの形状等の規定について従来例を見ると、例えば、特開平3-91117号公報に記載されているように、突起状パターンの面積比を1%以下とするもの、特開平3-173917号公報に記載されているように、突起状パターンの面積比を0.001~1%とし、かつ、その形状を断面矩形としたもの、特開平3-250420号公報に記載されているように、300オングストローム以上の突起状パターンの数を1平方ミリメートル当たり10個以内としたもの等のように、突起状パターンの面積比および数のみ規定しているにすぎない。

【0010】 しかし、従来の面積比および個数のみの形状等の規定により形成された磁気ディスクでは、突起状パターンの配置の規定がなされず、前述した磁気記録媒体と磁気ヘッドとの吸着現象および摺動耐久性に対する最適化を図ることが出来ないという問題点が有った。

【0011】 本発明はこれらの点に省みてなされたものであり、前述した従来のものにおける問題点を克服し、磁気記録媒体と磁気ヘッドとの吸着を確実に防止するとともに、摺動耐久性を向上した最適の突起状パターンを有する磁気記録媒体および磁気ヘッドならびにそれらを用いた磁気記録装置を提供することを目的とする。

【0012】

【課題を解決するための手段】 前述した目的を達成する

3

4

ために請求項1に記載の本発明の磁気記録媒体は、少なくとも磁気ヘッドと接触し摺動する領域に突起状のパターンが複数形成されており、その突起状のパターンが磁気ヘッドとの相対移動方向に連続して密に存在することを特徴としている。

【0013】そして、請求項2に記載の本発明の磁気記録媒体は、請求項1において、突起状のパターンの形成間隔が、磁気ヘッドとの相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 とすると

$L_1 \leq L_2$

の関係にあることを特徴としている。

【0014】さらに、請求項3に記載の本発明の磁気ヘッドは、少なくとも磁気記録媒体と接触し摺動する面の一部に突起状のパターンが複数形成されており、その突起状のパターンが磁気記録媒体との相対移動方向に連続して密に存在することを特徴としている。

【0015】また、請求項4に記載の本発明の磁気ヘッドは、請求項3において、突起状のパターンの形成間隔が、磁気記録媒体との相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 とすると

$L_1 \leq L_2$

の関係にあることを特徴としている。

【0016】さらに、請求項5に記載の磁気記録装置は、請求項1または2に記載の磁気記録媒体および請求項3または4に記載の磁気ヘッドの一方、あるいは、両者を備えたことを特徴としている。

【0017】

【作用】請求項1または2に記載の本発明の磁気記録媒体によれば、磁気記録媒体の少なくとも磁気ヘッドと接触し摺動する領域に、所定形状の突起状のパターンを、磁気記録媒体と磁気ヘッドとの吸着をおよび摺動耐久性に対して最適に配置することができる。

【0018】請求項3または4に記載の本発明の磁気ヘッドによれば、磁気ヘッドの少なくとも磁気記録媒体と接触し摺動する面の一部に、所定形状の突起状のパターンを、磁気記録媒体と磁気ヘッドとの吸着および摺動耐久性に対して最適に配置することができる。

【0019】請求項5に記載の本発明の磁気記録装置によれば、磁気記録媒体と磁気ヘッドとの吸着を確実に防止し、摺動耐久性を向上することが出来る。

【0020】

【実施例】以下、本発明の実施例を図1から図12について説明する。まず、磁気記録媒体の実施例について図1から図8により説明する。

【0021】図1は本発明の磁気記録媒体を磁気ディスクに適用した一実施例を示す平面図であり、図2はヘッドと接触し摺動する領域の一部を拡大した部分拡大平面図である。

【0022】本実施例の磁気ディスク1は、図1に示すように、従来と同様に適当な厚さの環状に形成されてい

る。そして、内側の所定範囲は磁気記録装置の起動・停止時に磁気ヘッドと接触・摺動するCSS（コンタクト・スタート・ストップ）が行なわれるCSS領域2とされ、前記CSS領域2の外周の所定領域は図示しない磁気ヘッドによる情報処理がなされるデータ領域3とされている。

【0023】また、この磁気ディスク1は、金属、ガラス、樹脂、アルミ合金にN1-Pめっきを施したもの等の適当な素材により環状に製せられた基板の一方の表面、あるいは表裏両面に、適当な下地層、磁性層、保護層、潤滑層が所定の厚みで順に形成されている。これらの各層はスパッタリング等の適当な成膜法により、例えば下地層としてクロム（Cr）を素材としたCr層等が用いられ、磁性層としてコバルト（Co）合金を素材としたCo合金磁性層が用いられており、保護層としてはカーボン（C）を素材としたC層等が用いられており、潤滑層としてはパーフルオロポリエーテル重合体等が素材として用いられている。

【0024】また、前記磁気ディスク1の表面と裏面の少なくとも一方のCSS領域2には、所定形状、本実施例では円柱状の多数の突起状パターン4、4、・・・が円周方向に複数列形成されるとともに、その高さを5nm以上とされている。そして、この各突起状パターン4は、図2に示すように、その形成してある間隔が磁気ヘッドとの相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 とすると

$L_1 \leq L_2$

の関係になるように形成されている。

【0025】本実施例の磁気ディスクの表面に形成される突起状パターン4について図3により説明する。

【0026】図3は突起状パターンの要部を示す拡大断面図である。図3に示すように、本実施例の突起状パターン4は、環状の基板5にフォトリソを塗布し、所定パターンのフォトリソマスクを用いて露光し、現像、エッチング等を行ない、フォトリソを基板から除去することで、円柱状の突起6を形成する。その後、この突起6を設けた基板5の表面に前述した下地層7、磁性層8、保護層9、潤滑層10が所定の厚みで順に形成されて、所定高さHの突起状パターン4が形成される。

【0027】なお、本実施例においては、突起状パターン4の形状を円柱状としたが、角柱状、円錐台状、角錐台状等の適当な形状でよく、特に本実施例に限定されるものではない。

【0028】また、本実施例においては、突起状パターン4をCSS領域2に形成したが、他の領域に形成してもよく、特に本実施例に限定されるものではない。そして、突起6はフォトリソエッチングだけでなく、放電加工、レーザ加工等の適当な加工方法により形成してもよく、特に本実施例に限定されるものではない。

【0029】つぎに、前述した構成からなる本実施例の

作用について具体的な実験例を例示して説明する。

【0030】実験例1

磁気ディスク1としては、図3および図4に示すように、ガラス基板5にフォトリソを施して円柱状の突起部6を、円周方向に複数形成した。その形成してある間隔は、磁気ヘッドとの相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 、とすると $L_1 \leq L_2$ である $L_1 : L_2 = 1 : 5$ の関係になるように配置した。このガラス基板5の上にCrを素材とした下地層7、Co合金を素材とした磁性層8、Cを素材とした保護層9を順に設け、さらに潤滑層を形成して所定高さの突起状パターンを形成した。

【0031】実験例2

実験例1における突起状パターン4の形成間隔の関係を、 $L_1 \leq L_2$ である $L_1 : L_2 = 1 : 2$ に変更し、その他は実験例1と同様な構造の磁気ディスクを作成した。

【0032】実験例3

実験例1における突起状パターン4の形成間隔の関係を、 $L_1 \leq L_2$ である $L_1 : L_2 = 1 : 1$ に変更し、その他は実験例1と同様な構造の磁気ディスクを作成した。

【0033】比較例1

実験例1における突起状パターン4の形成間隔の関係を、図5に示すように、 $L_1 > L_2$ である $L_1 : L_2 = 2 : 1$ に変更し、その他は実験例1と同様な構造の磁気ディスクを作成した。

【0034】上記磁気ディスクに対し、ミニモノシリクタイプフェライトヘッドを用いてCSSを繰り返した際の、磁気ディスク1と磁気ヘッドとの摩擦係数の推移について測定を行なった。

【0035】図6に前記測定結果を示す。図6から明らかなように、磁気ディスク装置の起動可能条件である摩擦係数0.8以下をCSS3万回後に満たす突起状パターンの形成間隔は、 $L_1 \leq L_2$ の関係の場合であり、 $L_1 > L_2$ の場合には摩擦係数が1.0以上になってしまうことが判明した。

【0036】このように本実施例の磁気ディスク1によれば、吸着を確実に防止し、CSS耐久性を従来の磁気ディスクに比べて著しく向上させることができる。

【0037】なお、本発明の磁気ディスク1に形成する突起状パターン4の配置間隔は、図7および図8に示すような場合も同様の効果がある。

【0038】図7は磁気ディスク1のヘッドと接触し摺動する領域の一部を拡大した部分拡大平面図である。図7の様に突起状パターン4を千鳥状に配置した場合も、突起状パターンの形成間隔を $L_1 \leq L_2$ とすることでCSS耐久性は優れたものとなる。

【0039】図8は磁気ディスク1のヘッドと接触し摺動する領域の一部を拡大した部分拡大平面図である。図

8の様に突起状パターン4の形状を磁気ヘッドとの相対移動方向に連続、または、一部間隔をあけた形状とした場合も、突起状パターン4が磁気ヘッドとの相対移動方向に連続して密に存在しているので、CSS耐久性は優れたものとなる。

【0040】なお、本発明の磁気ディスク1に形成する突起状パターン4は、実施例の様に基板5に形成する以外に、保護膜10等に形成する方法でも良い。

【0041】つぎに、本発明に関わる磁気ヘッドの実施例について図9および図10により説明する。図9は本発明の磁気ヘッドを3レールモノリシック型磁気ヘッドに適用した一実施例の全体を示す斜視図であり、図10は本発明の磁気ヘッドの摺動面の一部を拡大した部分拡大平面図である。

【0042】図9に示すように、本発明の磁気ヘッド27は、多結晶Mn-Znフェライト等で形成した略短矩形のスライダ28を備えている。このスライダ28の図示しない磁気ディスクに対向する面であるABS (Air Bearing Surface) 面とされる図中斜線部で示す摺動面29に、2本の溝30、30を磁気ディスクに対する相対移動方向と平行に凹設して、3本レール31が形成されている。そして、図中中央の1本のレール31と多結晶Mn-Znフェライトで形成した略コの字型のヘッドコア32とが、適当なギャップ33を介して図示しないガラス等により接合されている。ヘッドコア32には、所望のコイル35が巻かれている。また、コイル35に電流を流して、あるいは誘導電流を検出してギャップ33の部分で情報の記録・再生を行なうようにされている。

【0043】また、前記磁気ヘッド27の摺動面29を構成する3本のレール31には、所定形状、本実施例では前述した磁気ディスク1と同様の円柱状の突起状パターン4Cを磁気ディスクとの相対移動方向に複数形成した。その突起状パターンが形成してある間隔は、磁気ディスクとの相対移動方向の間隔を L_1 、相対移動方向に対し直角方向の間隔を L_2 、とすると $L_1 \leq L_2$ となるように配置した。

【0044】本実施例の磁気ヘッド27の表面に形成される突起状パターン4Cは、スライダ28の摺動面29にフォトリソを塗布し、所定のパターンのフォトリソマスクを用いて露光し、現像、エッチング等を行ない、フォトリソを基板から除去して、所定の高さの突起状パターン4Cが形成される。

【0045】なお、本実施例においては、突起状パターン4Cの形状を円柱状としたが、角柱状、円錐台状、角錐台状等の適当な形状でよく、特に本実施例に限定されるものではない。

【0046】また、本実施例においては、突起状パターン4Cを摺動面29を構成する3本のレール31のすべ

の両側のレールのみに形成してもよく、さらに、レール31の全表面ではなく一部の表面にのみ形成してもよく、特に本実施例に限定されるものではない。そして、突起状パターン4Cはフォトリソグラフィだけでなく、放電加工、レーザ加工等の適当な加工方法により形成してもよく、特に本実施例に限定されるものではない。

【0047】なお、本実施例においては、突起状パターン4Cをスライダを形成している多結晶Mn-Znフェライトをフォトリソグラフィして作成したが、摺動面29にカーボン(C)等の薄膜を形成した後に、フォトリソグラフィ等で突起状パターン4Cをカーボン層等に形成してもよく、得に本実施例に限定されるものではない。

【0048】上記のような構成からなる磁気ヘッド27が吸着を確実に防止し、CSS耐久性を従来の磁気ヘッドに比べて著しく向上させることができることが明白である。

【0049】なぜならば、磁気ディスクと磁気ヘッドはCSS時に相対して接触、移動するので、前述した磁気ディスク1における、突起状パターンの配置とCSS耐久性との関係は、磁気ヘッド27の突起状パターンの配置とCSS耐久性との関係に適用できるとともに、同様の効果を奏するからである。

【0050】つぎに、本発明の磁気記録装置を磁気ディスク装置に適用した一実施例について図11および図12により説明する。図11は本発明の磁気ディスク装置の一実施例の要部を示す平面図であり、図12は側面図である。

【0051】図11および図12に示すように、本実施例の磁気ディスク装置36は、磁気ヘッド37が支持装置38の弾性を有するアームの先端に取り付けられて磁気記録媒体39の上に吊持されている。そして、磁気記録媒体39を回転させることにより、磁気ヘッドを磁気記録媒体39の表面を走査させて、記録または再生を行なうようにされている。本実施例の磁気ディスク装置36の磁気ヘッド37には、前述した摺動面29に突起状パターン4Cを形成した磁気ヘッド27が用いられる。

【0052】以上のように構成されている本実施例の磁気ディスク装置36によれば、CSS特性および吸着性を著しく向上させることができる。

【0053】なお、磁気ディスク装置36の磁気ヘッド37に、従来の磁気ヘッドを用い、磁気記録媒体39として、前述した磁気ディスク1を用いることによっても同様の効果を奏することができる。

【0054】すなわち、磁気ディスク装置36の磁気ヘッド37あるいは磁気記録媒体39のいずれか一方、あるいは両者に本実施例の磁気ディスク1あるいは磁気ヘッド27を用いることにより、寿命が長く、安定した品

質を長期間にわたり保持させることができる。

【0055】なお、本発明は、前記実施例に限定されるものではなく、必要に応じて変更することができる。

【0056】

【発明の効果】以上説明したように本発明の磁気記録媒体によれば、磁気記録媒体に形成する突起状パターンの最適な配置を確実に、かつ、明確に表示できるとともに、このように優れた技術的效果を有する磁気記録媒体を品質を安定させ、精度良く、正確に製造することができる等の極めて優れた効果を奏する。

【0057】以上説明したように本発明の磁気ヘッドによれば、磁気ヘッドに形成する突起状パターンの最適な配置を確実に、かつ、明確に表示できるとともに、このように優れた技術的效果を有する磁気ヘッドを品質を安定させ、精度良く、正確に製造することができる等の極めて優れた効果を奏する。

【0058】さらに、本発明の磁気記録装置によれば、寿命が長く、安定した品質を長期間にわたり保持させることができる等の極めて優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の磁気記録媒体の一実施例を示す平面図。

【図2】本発明の磁気記録媒体の表面部分拡大平面図。

【図3】本発明の磁気記録媒体の突起状パターンの要部を示す拡大縦断面図。

【図4】本発明の磁気記録媒体の表面部分拡大平面図。

【図5】従来の磁気記録媒体の表面部分拡大平面図。

【図6】本発明の磁気記録媒体の突起状パターンの間隔比と摩擦係数の関係を示す図。

【図7】本発明の磁気記録媒体の表面部分拡大平面図。

【図8】本発明の磁気記録媒体の表面部分拡大平面図。

【図9】本発明の磁気ヘッドを3レールモノリシック型磁気ヘッドに適用した一実施例の全体を示す斜視図。

【図10】本発明の磁気ヘッドの摺動面の一部を拡大した部分拡大平面図。

【図11】本発明の磁気記録装置の一実施例の要部を示す平面図。

【図12】図11の側面図。

【符号の説明】

1 磁気ディスク

2 CSS領域

3 データ領域

4, 4C 突起状パターン

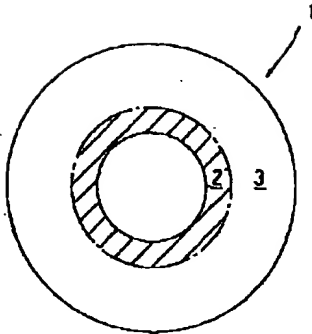
27 磁気ヘッド

29 摺動面

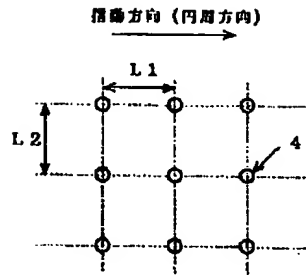
31 レール

36 磁気記録装置

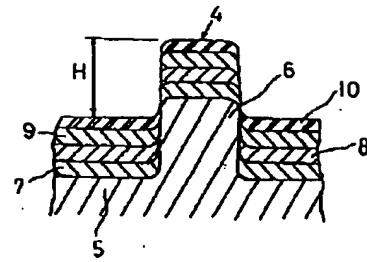
【図1】



【図2】

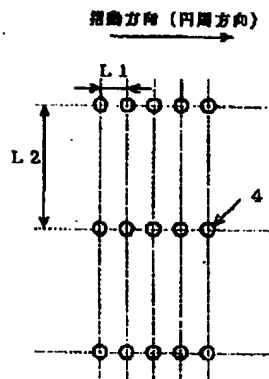


【図3】

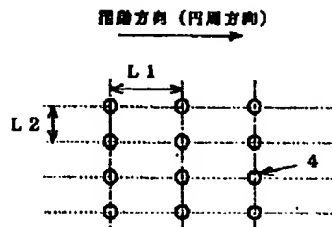


【図7】

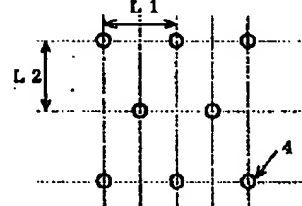
【図4】



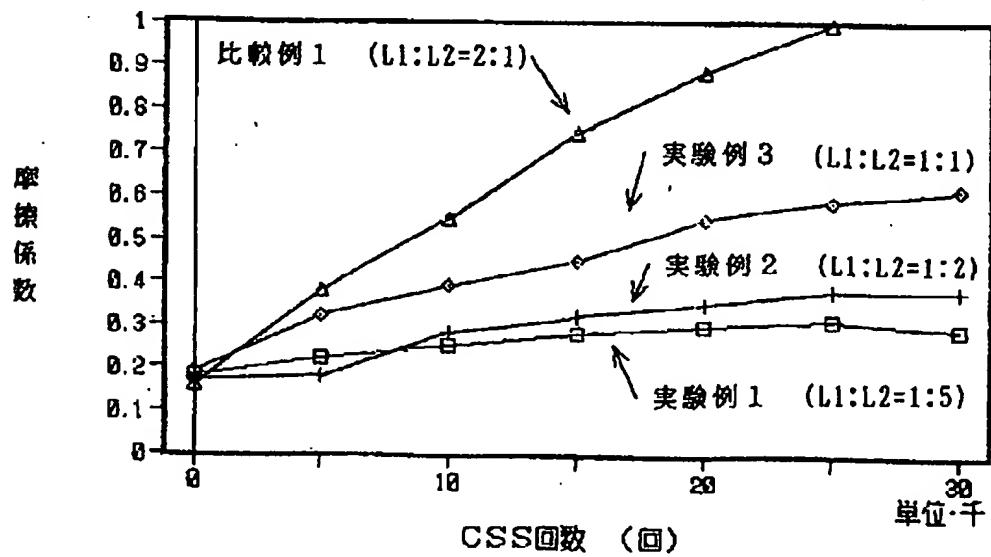
【図5】



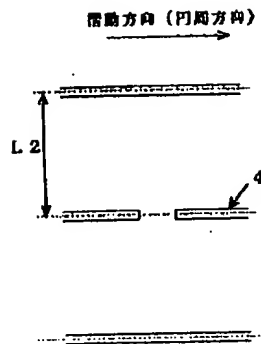
揺動方向 (円周方向)



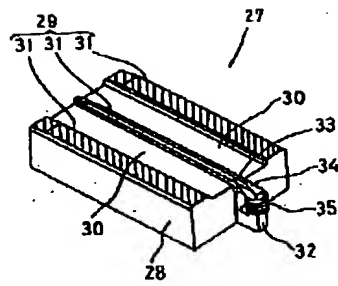
【図6】



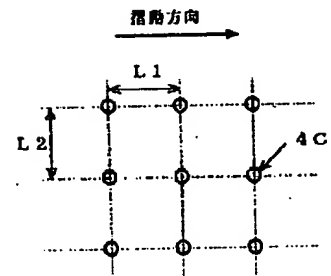
【図8】



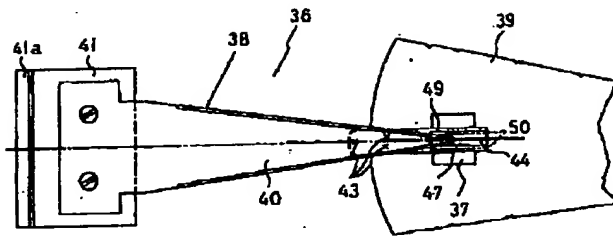
【図9】



【図10】



【図11】



【図12】

